

興居島地区タウンミーティング(要約)

平成26年3月23日(日曜日)

【市長】 皆さん、こんにちは。日曜日の午後ですので皆さんご家庭でおくつろぎの方も多かったのではないかなと思います。このように大勢の方がお集まりをいただきまして、ありがとうございます。このタウンミーティングの開催にあたりましては興居島各町連絡協議会の会長をはじめ、役員の皆様方には、今回も前回同様に大変お世話になりました。ありがとうございます。このタウンミーティングですけれども、私が就任をさせていただいてから始めさせていただきました。どっちが楽かという話をすれば、市役所で我々が待っているほうが楽です。でも果たしてそれでいいんでしょうかと。松山市はあわせて41地区に分かれますけれども、私たちが市役所で待っているのではなくて、我々から各地区に出向かせていただく。そして各地区で課題もあると思いますし、お困りの点もあると思いますし、逆に各地区の魅力もあると思いますので、そういったところを聞かせていただいて、すぐできるところから市政に反映していこうということからタウンミーティングを始めさせていただきました。この興居島のタウンミーティングは1回目はちょうど2年前の3月25日に行っておりますので、2年ぶりに来させていただきました。大体41地区を1巡目回るのに2年かかりましたので、大体ほかの地区も2年ぶりに通っている、来ているという形になります。例えばパフォーマンスとかガス抜きのためにやっていたんだったら、このタウンミーティングやるのも大変なので1巡で終わっていたと思うんですが、私は皆さんの声をできるだけ早く市政に反映していきたいと思っています。そういったことから2巡目に入らせていただきました。聞きっぱなしとか、やりっぱなしにしようと思ったらこのタウンミーティングは楽です。この現場で皆さんからいただいた声には、この場でできるだけお答えをして帰ります。例えば国と絡む案件とか、県と絡む案件とか、財政的な問題が絡むもの、すぐにお答えできないものもありますので、そういったものはいったん持ち帰らせていただいて、必ず1カ月を目途にお返事をさせていただいております。聞きっぱなしにしない、やりっぱなしにしないのがこのタウンミーティングの特徴でございます。今日は松山市役所の専門分野がありますので6名の担当が来ております。それぞれどういう仕事を日ごろからしているかをご紹介をさせていただいて、皆さんには質問しやすい状況をつくらしていただけたらと思いますので、順番に市民部長から仕事の担当をよろしく願いいたします。

【市民部長】 市民部の吉野と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。市民部は一番市民の方と接するところです。興居島にもありますが支所、それとか市民課の窓口、市民相談室、人権関係とか、市民参画まちづくり課と申しまして市民の協働のまちづくりをしている、そういう仕事をやっております。どうぞよろしくお願ひいたします。

【地域振興担当課長】 坂の上の雲まちづくりチーム、地域振興担当課長の中富と申します。愛ランド里島構想の具現化に向けて一生懸命取り組んでおりますので、今後ともよろしくお願ひいたします。

【都市ブランド戦略課長】 産業経済部都市ブランド戦略課長の矢野でございます。どうぞよろしくお願ひいたします。私ども都市ブランド戦略ということで、松山市を特に首都圏を中心に全国の方にこの松山のよさを知っていただくという取り組みをしております。それから地域経済、特に中小企業支援とか商店街振興、それから観光戦略にも取り組ませていただいております。それから産業経済部の中には、もう一つ農林水産担当部もございまして、そちらで農業について担当をさせていただいております。どうぞよろしくお願ひいたします。

【都市政策課長】 都市整備部都市政策課の松本です。都市整備部では道路の建設や維持管理、公園あるいは総合交通課と申しまして交通関係、いろいろなインフラ整備とか維持管理部門を担当しております。よろしくお願ひいたします。

【保健福祉政策課長】 保健福祉部保健福祉政策課の高橋と申します。保健福祉部では子どもからお年寄りまでの保健、福祉、医療関係の仕事を担当しております。どうぞよろしくお願ひいたします。

【生涯学習政策課長】 教育委員会事務局から来ました生涯学習政策課の津田と申します。よろしくお願ひいたします。教育委員会事務局では学校教育から地域にあります公民館、生涯教育また文化財、図書館等の業務を担当しております。どうぞよろしくお願ひいたします。

【市長】 今日はそれぞれの専門6名と一緒に来ております。今日はよりよい興居島づくりに向けての話し合いが皆さんとできればと思っておりますので今日はどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

【男性】 先日、町内会長から、来年度から広報委員会の制度が廃止になると聞きました。私はなぜだと思いました。私は6年間、松山市総務会に出まして、地元に応報委員会を組織して市広報の活動に努めてまいりました。広報委員会は大変重要な制度であると考えております。じゃあ、市の広報を読めと言われるかもしれませんが、高齢者の比率が50%を超えております。島内の100人に56人は75歳以上です。その人に市の広報

を読めと言ったら、その人はきっと「何、わしがかな」と言うに決まっている。やはり口頭で広報活動はすべきもので、住民の方にその話をしましたら、早速各論が二つ出ましたので申し上げます。まず、その1ですが、市民と松山市行政との最も密接な関係にあるのは支所である。支所の広報活動を充実してもらいたいという意見でございました。私は、支所の業務で広報があるかなと思いました。そしたらございました。先日、島内の全戸へ配られた船賃の一部助成についてのお知らせ。この興居島支所は早速取り組んでおられる。しかし、全戸に配るのは大変だったろうなど。そこで一つ提案しておきます。興居島は各地区町内会が健在で、町内会に住民との細かい接点がございます。ですから支所と町内会との連携が進められるべきである。これがその1でございます。その2、高齢者比率が50数パーセントになっています。そのために高齢者単独の家庭が増えております。いわゆる独居老人でございまして、孤独死もございます。そこで民生委員さんに定期的なご訪問をお願いできないかと。隣近所の自助努力も加えて、民生委員さんをお願いしたらと。私は23日にちょうどいい機会があるから、広報活動として民生委員さんの業務の内容をお知らせ願うように頼んでおきますからということでございます。以上2点、行政のご見解をお聞かせください。

【市長】 ありがとうございます。まず広報委員制度の廃止のことですね。

【市民部長】 市民部の吉野です。どうぞよろしくお願いたします。ご質問ありがとうございます。まず、松山市の広報委員制度でございますけれども、制度発足後65年たちまして、その活動を取り巻く環境がいろいろ大きく変わってまいりました。特に平成17年度に広報紙やごみカレンダーなどで配布を民間委託しまして、広報広聴手段がいろいろ多様化して活動内容が変わってまいりました。現在、広報委員の多くが町内会長や町内会の役員を兼務された方が非常に多くて、その活動が市の広報広聴活動だけでなく、地元の発行物の配布・回覧、それから各種団体と連携した防犯活動や募金活動、環境美化活動というさまざまな地域活動まで広がってまいりました。そういうことで現在、広報委員の役割が制度発足当時の市の仕事を委託という位置づけから、地域活動を担う地域の役員という位置づけに変わってきておりまして、そういう実態を踏まえまして広報委員制度を見直し、来年度から新たな制度へ移行するようにしたわけでございます。ただ、広報委員制度の見直しは、広報紙には掲載したことはございませんが、広報委員の総務会とか、担当課の職員が地域にお伺いをしまして、地区の広報委員会や関係団体との会合等で説明はしております。ただ、今後、地域の活動を応援する「地域協働活動応援事業」につきまして市民

の皆さんに「広報まつやま」とかホームページなどで周知啓発をしていきたいと思えます。よろしくお願ひいたします。それと支所のことですけども、支所は日ごろから地域の各種団体の活動を支援したり、支所職員が会合に出席して、地域と今までも連携を取ってまいりまして、地域と市役所のパイプ役として役割を果たしてきたつもりでございます。引き続き市政情報の発信に努める、また広報委員制度の廃止に伴いまして、各地区に設立されます受け皿組織につきましても、これまでと同様に活動を支援しまして、連携を図りながら地域に根ざした市政運営に努めてまいりたいと考えておりますので、何卒ご理解のほどよろしくお願ひいたします。

【市長】 市役所の仕事はどんなことをやっているのか皆さんに知っていただくことはすごく大事なことなので、私が就任させていただいてから、壁新聞という言い方もありますけれども、支所の壁も皆さんに知っていただく場所だからそういう工夫もしましよと言っているところです。広報は大事とよく思っていますので、いい形に広報委員制度のこともやっていきたいと思えます。

【保健福祉政策課長】 保健福祉政策課の高橋です。よろしくお願ひします。独居老人の方へ民生児童委員が定期的な訪問をとというご意見だったと思えますが、一人暮らしの高齢者の方については、安否確認を目的として「独居高齢者みまもり員制度」をつくっておりまして、民生児童委員が援護等が必要と思われる一人暮らしの高齢者の方の実態調査を行っています。その中で希望があった方については、独居高齢者みまもり員が定期的に自宅を訪問して声掛けするなどのみまもり活動も行っております。そのほかに緊急通報装置の設置、配食サービス事業、乳酸菌飲料を配布する愛の一声訪問事業なども実施しております。それと市長から、孤立死の対策を講じるよう指示を受け、24年の9月に「松山市見守りネットワーク」を構築しました。これは金融機関、電気、ガス、郵便局などの20の事業者で構成されているんですが、その事業者が業務の中で察知した異変、例えば何日も新聞がたまっているとか郵便物がたまっているとか、そういう情報を市役所とか社会福祉協議会に連絡いただいて、現地に出向かせていただいて適切に対応する体制もつくっておりますので、ご理解お願ひいたします。

【市長】 孤独死、防犯のこと、介護のことに、子育てのことについて、つながりがいいよりかはつながりがあったほうがいいので、もし皆さんもご近所の方で新聞とか郵便物がたまっている、何かちょっとおかしいなということがあったら、何もなくて人騒がせやっとなってもいいですから、声をかけあうことが大事ですので、遠慮なく言っていただいても結構です

ので、よろしく願いいたします。

【男性】 私、民協の会長をしております。みまもり活動はしており、道歩きよっても確認したということで。今年からみまもり委員も新しくなり若くなりましたので、これからは一生懸命行ってくれとはっばかけますので、皆さんにお知らせをしておきます。各民生委員は一生懸命になって島民の孤独死は興居島から絶対出してはいけないと頑張っております。さっきから言われたように、いろいろな連絡等もしておるのでそういうことも踏まえて切にお願いいたします。

【市長】 熱心な方がいらっしゃるのは本当に感謝申し上げたいと思います。また今後ともいろいろあると思いますけども、よろしく願いいたします。

【男性】 しまづくり魅力向上と交通の確保について、現在、交通手段は島民の足として基本はフェリーでございます。通院・通学については割引制度を市から助成していただいているということで、大変ありがたく思っております。ただ、運営については、人口減少に伴いまして会社も1社にしたけれども、だんだん経営は厳しくなると思いますので、今後とも市のご協力をよろしく願いしたいと思います。もう一つは夜の足であります海上タクシーですけれども、これも利用者が減っているということで、運営されている方は非常にしんどいようなことを言っておりまして、いつやめるかわからない状況にあることは間違いないと思います。ただ、島民の足であることには間違いございませんので、夜遅くなって残業などで帰れないとなると、大変大きな問題になりますので、この辺も市も考えがあれば、ひとつフェリー同様に考えていただきたいと思います。そしてもう一つ、以前は陸上のタクシーがございましたけれども、タクシーもなくなりまして病院に行くとか遠方から松山市に行くとしても不便であると。誰かがお連れしているんじゃないかと思えますけれども、アンケートもあつたと思いますが、料金徴収してもそういう輸送手段はないのか、例えば今、学校の送り迎えでバスを運行されていると思うんですが、あれを1日に何時間、ある程度の時間表つくって運行することで、島民の足にさせていただいたら大変ありがたいと思います。

【市長】 まずフェリーですけれども、どのような補助があるのかをご紹介させていただきます。これは私が市長にならせていただいて、最初に中島や興居島に行ったときにフェリーの航路の料金がちょっと負担に感じるというのをいただいておりました。実際にどういう実態か調査させていただいて、平成24年度から島にお住まいの方が通院や人工透析など、また妊婦が検診を目的に航路を利用した場合には、その経費の一部やまた全

部を補助しています。さらに昨年7月に、興居島が新たに離島振興地域になりました。それまで中島地域で実施していた制度の三つを拡大して利用できるようになりました。一つ目が通勤通学のためのフェリー定期運賃の補助ができるようになりました。そして市が実施する保健事業に参加するときのフェリー運賃の助成ができるようになりました。そして三つ目、介護保険施設へ入所するときのフェリー運賃の助成ができるようになりました。こういう助成がありますので、利用をしていただいたらと思います。そしてフェリー事業者の経営状況は、常に意見交換をして把握に努めており、国・県にも協議をして島の方が安心して利用できるように、常に経営状況は話をさせていただいております。海上タクシーは、都市政策課長から話をさせていただいて。もう御存じのように興居島で運行していたタクシーは、今、体調が悪くなられたこともありまして、廃業されています。現在、アンケートもとらせていただきましたが、地域の方々と松山市役所の総合交通課と高齢福祉課と松山市社会福祉協議会で交通手段の確保について協議を行っているところです。こういう例がありますというので申し上げますと、徳島県に上勝町といたしまして、葉っぱを料理に入れる葉っぱビジネスで有名な高齢者のまちがありますが、これはお年寄りが山から季節の葉っぱをとってきて、都会を中心に全国で販売してビジネスとして成功している、高齢者の元気にもつながっている徳島県の上勝町というところがありますが、その上勝町ではユニークな交通の取り組みをしていまして、上勝町に住んでいる運転士がボランティアで、移動手段に困っている高齢者の方を目的地まで一定の料金で運ぶものです。運賃は運転士のガソリン代などの経費に充てられて運営が成り立っている。地元の方の自らを助けるまたは共に助ける気持ちから生まれた、すばらしい事例と言われているんですけれども、こういう取り組みもあります。実は今日フェリーで興居島に来るときに、「鷺ヶ巣から歩いて船に乗りよんよ」というおばあちゃんと話をさせていただきました。確かに今、お知り合いの方に乗せていただく例もあると思いますけれども、何らか陸の交通手段をできればなと思っておりますので、皆さんと行政が協力することによってできる例もあると思いますので、そのときはまたお願いができればと思います。

【都市政策課長】 都市政策課の松本です。よろしく申し上げます。松山市では離島航路や生活交通バスについて、バス路線は民間事業者がされておりませんが、赤字が大きくて県・市で補助をさせていただいております。タクシーについては、市や県が出す場合は税金になりますので、松山市内の陸上のタクシーは補助をしておりません。そういったことで、なかなか海上タクシーにするのは難しいところがございますので、ご理解いただけ

たらと思います。

【市長】 あと学校の送り迎えのバスを利用できないかというお声をいただきましたが。これは教育委員会から。

【生涯学習政策課長】 生涯学習政策課の津田でございます。学校のバスは名称はシーアイランド号、大体30人近く乗れるバスでございますが、正直申し上げまして生徒でいっぱい状態になっておりますので、朝の時間帯とか夕方の時間帯に関しては、一般の方をお乗せするスペースがないことをご理解いただきたいと思います。あともう1点申し上げますと、学校の授業等で基本的に使っておりますので、例えば平日の月曜日から金曜日まで何時から何時にどのあたりをバスが走っているのを事前にお知らせすることが非常に厳しいと考えております。あとはどのあたりをバス停にしていくかも陸運局等と相談が必要となってくると思いますので、いったん持ち帰らせていただきまして、基本的に朝の時間と夕方の時間は難しいということだけご理解ください。お願いします。

【市長】 確認ですが、学校のバスを島の方々の移動に使うのは、全く可能性がないのか可能性はあるのかどうなんでしょうか。

【生涯学習政策課長】 契約の内部事情になりますので、それはまた結び直せばいいと思うんですが、ここに限らず例えば日浦もバスを走らせています。あの周辺の方も高齢者の方が多いのでというお話がありまして、今現在、教育委員会で検討はしているんですけども、現時点で一番困っておりますのは、どの時間帯をそのバスが走っていますというお知らせが果たしてできるかなど。年間の大きな学校行事が決まるのが3月の終わりぐらいに決まるんです。1年間こういう行事をしましょうと。ただし、飛び込みで地域の方とふれあうでありますとか、小学校や中学校のみんながバスに乗ってどこか出向いていくと、その時間帯に急遽バスが走らない形になって、期待されている方にご迷惑をかけるといけませんので、もし乗れるようになったとして、どういう周知ができるのかは問題になろうかと思えます。何点かそういうところありますので、しばらく時間をいただければと思います。

【市長】 普通のバスだと時刻表のとおり来るのが当たり前ですけども、そういうバスではないのでそこをやっていく必要がある。やっぱりやりだしたものの利用ができないのではいけないので、クリアしないと行けないところがあるということです。

【男性】 私、興居島小学校のPTAの会長をさせてもらっているんですけども、スクールバスのことが出たのであわせてお願いですけど、今、島内の子どもたちの通学にバスを使わせてもらっているんですけど、最近、

島外の子どもも増えてきまして、バスも子どもたちだけでいっぱいになっているんです。参観日とか行事ごとがあって保護者の方が来られるときは、そのバスを一緒に使わせてもらっているみたいですが、私たちも島外から子どもたちがいっぱいきてくれるようにと思い、P T A活動等もいろいろやらせてもらっているんですけど、予算的な問題があるのかわからないんですけど、なかなか利用が困難な場合があって、一部保護者の方をお願いしてP T A活動のときに島の保護者の方が自分の車で迎えに行ったりをしているんですけど、もし事故とかあってもいけないので、その辺も融通をきかせてもらってバスの利用をもうちょっとさせていただけたら希望としてありますので、その辺をお願いします。

【生涯学習政策課長】 ご質問ありがとうございます。先ほど出ましたバスですが、定員28か30人ぐらいだと思ったんですけども、ご利用している生徒さんでいっぱいになっています。このバスも平成5年登録だったと思いますので、かれこれ20年近くは走っているんですけども、もう少し大きなバスにないしは何回か繰り返しという話だと思うんですけども、大体バスの時間が、今、島内4カ所ぐらいとまるところがあると思うんですけども、それに応じて走っておりますので、もう一回りすると最初に着いた子が15分20分その場所で待つ可能性もあろうかと思えますので、その辺どのようなことができるのか、今、机上ではなかなか想定しづらいんですけども、持ち帰らせていただいたらと思えます。

【市長】 バスで皆様にお知らせしなければと思っていたんですが、もものはな保育園の通園バスの運行を一人でもお願いしたいというご要望を受けておりました。皆さん御存じのように、興居島では泊保育園と由良保育園の統廃合がありました。泊地区のお子さんをもものはな保育園に送迎する事業を平成10年の4月から始めていまして、今は由良を含めてすべての園児を送迎しています。これは来年度も送迎は継続する予定でありますのでご安心をしていただけたらと思えます。

【女性】 しまづくりとか交通手段ですけども、やっぱり活性化するにはよそから呼んでくるのではなくて、島からの活性化が一番だと思っております。それには、お年寄りの人たちが元気でいてもらわなければ人が流出します。流出してしまえば、結局は島民が少なくなって、活性化という言葉だけで何にもならないと思うんです。確かに島しょ部の交通運賃の補助もいただいていますけども、それをするには市役所へ書いて出さないといけないとかになると、やっぱり80を過ぎた人に書けとかいろいろするのはとても大変だと思うんです。2回目からとか、3回目から半分とか、難しいことを言っております。私も嫁が妊婦になったもんですから、

補助をいただけるということで「出したらどう」って言ったら、「1カ月に1回の健康診断に行くだけだから、お母さん1回ぐらいいいよ」という感じで、あっても使わないことが多いです。妊婦になったら母子手帳をいただきますが、そのときに一緒に補助していただける金額を、切符みたいなものでいただけるとかしないと、せっかくできた補助制度もだめになるし、お年寄りの人は特に自分で行って申し込むのは、なかなか難しいことだと思います。それと、よそから来ていただくことが活性化だと思うんですけども、外から来ていただく人は「しまはく」の関係で、帰りはただの運賃だそうです。それだったら島の人たち自体は何のメリットもないといったらおかしいんですけど、来ていただいてもその日だけで、あと続けがいいですけれども、例えば移住してくれるとか、魅力を持ってきてみんなを呼んできていただくとか、そういうことが結局目標だと思うんですけども、なかなかそうになっていないと思うんです。お年寄りが50パーセント以上になっている興居島にとっては、ただイベントをやっているだけという感覚で、あまりお年寄りの人たちも一緒になってやるということが少ないと思いますので、確かに活気づいていいことだと思うんですけども、お年寄りも一緒になってできるようなことをしていただけたら、活性化にもなるんじゃないかと思っております。

【保健福祉政策課長】 保健福祉政策課長の高橋です。よろしく申し上げます。船賃補助の手続きをもっと簡単にしてほしいということですが、今は実際にフェリーを利用していただいて、お金を払った後に申請してお金をお返しする制度ですけど、保健所で所管をしております。保健所の医事薬事課で、もう少し手続きを簡素化できないかどうかを検討させていただけたらと思います。

【地域振興担当課長】 地域振興担当課長の中富でございます。まず、これまで取り組んできた経緯ですけれども、平成22年の「しまはく」であったり、先日21日に宮島でオープニングがありました「瀬戸内しまのわ2014」は、交流人口の拡大を目指した取り組みでございまして、まずは島に来ていただかないことには、島のよさを島外の方に感じていただくことはできないと思っております。したがって、まずは交流人口の拡大を目指した取り組みとして、そういったことを積極的に推し進めておりまして、例えば里島ツーリズム連絡協議会がやっている魅力的な島の体験メニューを体験していただいた場合には、復路運賃の補助制度を設けて、島外から島に来やすい仕掛けをやっているところであります。一方で定住人口の拡大の取り組みとして、由良小学校の跡地を活用して、体験滞在型交流施設に取り組むこととしております。この施設はお金を出せば簡単に

できます。施設はできるんですけれども、そこに魂を入れるのは地元の皆さんだと考えておりました、よそから入ってきた人を温かくおもてなしをする、迎えて島に居ついていただくための組織をつくることとしておりました、その組織では、例えば島に入ってきていただいた方と島の方との交流ができるようなやり方、島の方で「私はトマトづくりが得意なんじゃ」とか「きゅうりづくりが得意なんじゃ」、「土づくりが得意なんじゃ」、そういった人に営農指導をしていただくことによって、その方にも指導料が入るような、島の方にもメリットがある仕組みづくりを考えておりますので、お年をとった方にも喜んでいただけることに取り組んでいきたいと考えているところでございます。

【市長】 地域振興担当課長は中島の出身です。島の状況をよく知った人間が、できるだけ足を運んで興居島とか各島に行かせていただいて、実態をよくとらえて政策をやっていくことが大事だと思いますので、現場を知らない課長よりも、中島の出身でよく島のことをわかっている課長がすべきだということで、地域振興担当課長をやっております。島の方々のご意見をいただいて、今、何をすべきなのか、後手踏まないで何ができるのか考えながらやっておりますので、また、いろいろとお力添えをいただいたらと、ご協力いただけたらと思います。よろしく申し上げます。

【男性】 私、由良公民館長をさせていただいております。公民館長の立場から2点ほど質問させていただきます。まず1点目は、先ほどから出ておりますスクールバスの件ですが、旧由良小学校跡地利用が決定いたしまして、公民館で体育祭をやっているんですけど、おそらく来年から跡地ではできない状況になろうかと思っております。そうしますと、もし実施するのであれば興居島小中学校グラウンドで実施するようになる可能性がございます。その場合に、お年寄りの移動手段としてスクールバスをお願いできないかということでございます。1点目はこれです。そして2点目は旧由良小学校の体育館、これは泊にもありますけど体育館の耐震化の問題でございまして。これはおそらく松山市でも1、2を争う耐震率の悪さではないかと思っております。廃校しているということで、耐震化はおそらく現在運用されている小中学校が優先するんだろうとは思っております。島は耐震化率が悪いことで使用するにあたって危険な状態ではないかと思っております。興居島は泊も由良もそうですけど、公民館行事で行われます文化祭は、コミュニティの場として非常に多くの島民の皆さんが文化祭に参加されます。ぜひ耐震化を急いでいただきたい。この2点をよろしく願いいたします。

【生涯学習政策課長】 教育委員会の津田でございます。先ほども一部答えさせていただいたんですけども、基本的にスクールバスが今、満席の状

態です。運転手の確保ができて、どこかの拠点に集まっていただいて、時間をずらして2巡、3巡回れば可能だと思います。ただ、今の段階でいうと、何月何日にどういう形でバスを運行できるかという手元の資料がございませんので、小学校なり中学校の体育祭等の日程が決まれば、学校長から教育委員会に相談があらうかと思っておりますので、今のご意見を踏まえて私から伝えておきます。もう1点の由良小の体育館の件ですが、これも以前からご相談があったと聞いておるんですけども、館長がおっしゃられたとおり、現有の勉強している子どもたちの校舎とか体育館の耐震化を最優先に考えております。また公民館も本館を最優先に考えており、前倒しはしておるんですけども、平成29年度ないしは平成30年度に終わる計画でございます。また、公共施設マネジメントという新しい制度ができておりますので、どの建物にどういう価値をつけて、どういう維持をしていくか。耐震、延命を市全体で考える時期にきております。ですから、子どもたちが通っていない学校や体育館の順番がどう決まるかになろうかと思っておりますので、この場でそれはできるとは言えませんが、ご理解いただければと思います。

【市長】 ちょっと財政についてお話をさせていただいたらと思います。役所なんて絶対つぶれないものというイメージがあったと思いますが、北海道の夕張市が経営破綻をしましたように、市役所がつぶれないという時代じゃなくなってきました。松山市はどうかというと、直ちにつぶれる状況ではありません。中四国の中では健全財政と言われておりますけれども、実際に財政を見させていただいて、油断はできないのが正直なところだと思います。皆さん聞かれたことがあると思いますが、国が今、1千兆円の借金を抱えています。日本の人口は1億3千万人ですから、割り算をしたら一人あたまでどれだけの借金を抱えているかがわかりますけども、仕送りと同じです。国から地方に地方交付税交付金とか国庫支出金という形で地方にお金が回ってくるんですけども、仕送りと同じで、親元が厳しかったら地方に回ってくるお金が増えるとはとても考えにくいです。そういった中で、小学校や中学校の子どもたちは、子宝といいますが、将来の日本・松山・愛媛を背負ってくれる立場です。そういった子どもたちが学校の校舎や体育館が耐震化できていない、いざというときには体育館に避難していくわけですから、そういうところが耐震化できていないと心配です。ですので、お金は要りますけども、思いきって前倒しをしようということで、4年前倒しをして平成33年完了のところを、平成29年完了にさせていただきました。まずは今の小学生、中学生、また幼稚園、保育園の子どもたちが通っているところを耐震化をさせていただこう。消防団のポンプ蔵

置所も耐震化ができていないところがあります。いざ出動しようと思って
も地震で壊れてしまって消防団の消防車が出れんかったらいけませんの
で、そういうところをさせていただいている。やっぱり限りある財源であ
りますので、優先順位をつけさせていただいて、させていただいております
ので、私もこういうタウンミーティングで皆さんから「市長これやって
くれ、あれやってくれ、これやってくれ」って言うていただきます。私も
人間ですから、「わかりました、これやりましょう。はい、わかりました、
これやりましょう」って言えたほうが私も人間ですから楽です。でも、そ
れをやってしまうと将来の世代にツケを残すことになってしまう。だから
バランスをとってやらんといかんのです。ですので、ちょっとそのあたり
は本当に申しわけない思いですけども、まずは優先順位をつけさせていた
だいて、やらせていただこうと思っておりますので、ご理解のほどよろし
くお願いいたします。

【男性】 失礼します。興居島小中学校に勤めております。お世話になり
ます。今、市長さんから財政面で苦しいとお聞きしたんですけれども、そ
れを聞いた上でこういうお願いで大変申しわけないんですけれども、私、
島外から通っております。電車を使って、フェリーに乗ってこちらに来て
おりますが、8時10分で高浜は最終になって移動ができません。ちょっ
と不便だなと考えておりました。ところが、子どもたちの卒業後とか中学
生くらいになりますと、習い事とかがありましたら8時台のフェリーでは
戻れないということが生じてきます。高校生になって遠方の高校に行きま
したら、部活動をして、少し学習とかになったら到底それができません。
高浜港から10分、15分で渡れる興居島ですけれども、その時間の壁が
ございます。それから由良小の跡地に定住していただくための滞在型の施
設をとということですけれども、やはりまちへ行って、また高校とかそうい
うことを考えたときに、やはり二の足を踏んでしまうんじゃないかと思
います。高浜駅に10時半が最終のまちに行く電車が出ます。それに戻
ってくる電車があるはずですので、その10時半前後までフェリーが何と
か動けば、もっとこちらから働きに行く、また島外から働きに来る、そし
て子どもたちがまちへ行って活動する、学習する、そういうことができる
んじゃないかと思えます。フェリー等の経営状況と相談もされながら
とお聞きしたんですけれども、この中には運行の変更は考えていないとい
うことですが、活性化ということであれば運航状況をもっと考えてみてく
れないかという形で、逆に行政、市から「ごごしま」さんに働きかけて
いただいたりする。これもお金が要ることなので、大変難しいんだろうと思
うんですけれども、せつかく高浜駅から港まですぐのところですから、鉄

道を活かせばもっと島に残ってくださる若い方もおいでるだろうし、また、こちらに入ってこられる方もおるんじゃないかならうかと思ひます。そうすれば、小学校中学校も地域の中で子どもたちが元気に活動ができるんじゃないかならうかと思ひます。松山市内の中で、ものすごくすばらしい教育環境ですので、ぜひともそういう環境が維持できますように、フェリー運航をそういう形に働きかけていただけたらありがたいなと思ひます。よろしくお願ひいたします。

【都市政策課長】 今のご意見は市から運行会社、フェリー会社にちゃんとお伝えをさせていただきますので、よろしくお願ひいたします。

【市長】 皆さんに誤解のないように私の気持ちを伝えたいと思ひますが、皆さんに逆に気を遣わせてしまつて申しわけありません。財政のことを言ひましたけれども、言ひていただいたほうがいいんです。国・県・市とありますけれども、市民の皆さんと一番近い距離にあるのはどこの役所かといつたら市です。県になるとちよつと離れます。国になるともつと市民の皆さんとの距離は離れます。市役所にとって、皆さんの声が把握できないのは致命的な結果になります。ですから、一番身近な自治体である市役所は皆さんの声をしっかりと受けとめないといけなひんです。ですので、どうぞ言ひていただいたらと思ひます。確かにお金は厳しいです。全国どこの自治体もそうですけれども、お金がないからといつて思考停止になるんじゃないなくて、知恵と工夫でできることがあります。そして行政だけじゃなくて地元の皆さんと協力することで、できることがあります。ですので、皆さんから言ひていただいたほうがいいので、また知恵と工夫でできることがありますし、皆さんと協力してできることもありますので、ご理解いただけたらと思ひます。よろしくお願ひします。

【女性】 泊に住んでるんですけれども、たまたま「しまのわ」に関係することになりまして、今、「いよココロザシ大学」に所属して居るんですけれども、その中で興居島として「しまのわ」で何かできることはないかということで、私から泊地区に昔から伝わる十七夜というお祭りを提案させていただきます。この十七夜というのが、かなり前からだんだん寂しくなつてきていまして、自分たちの仲間て立案したんですけれども、市民参加でこの十七夜を盛り上げるということで、島の周りに2キロほど続く提灯が、今現在は裸電球が多くなつてしまつていて、そこのところに市民の方に呼びかけて提灯を吊つてもらふというイベントを行おうと計画して居るんですけれども、これはたまたま今年「しまのわ」のイベントとして行ひますけれども、毎年恒例のイベントにしていくと絶対化けるイベントだと思ひます。そういうこともありまして、今日皆様がここにお

集まりになるということで、この場を借りてこういう行事にご協力くださいということで発言させていただきました。

【地域振興担当課長】 ありがとうございます。「しまのわ」昨日の愛媛新聞でも報道されておりましたけれども、一昨日3月21日宮島でのオープニングを皮切りに、今年の10月26日まで広島・愛媛両県の島しょ部やあるいは臨海部で継続的な活性化を目的として、さまざまなイベントを開催することとなっております。ご紹介させていただくために、お手元に「しまのわガイドブック」をお配りしておりますので、ご覧いただいたらと思いますけれども、まず8ページをお願いします。宣伝になるんですけども、一週間後に中島と興居島で1日でチャーター船で巡るサイクリングをやります。大体150台、市長も参加してこの島を回っていきますので、当日は交通で大変ご迷惑をおかけすることになります。少し自動車等を運転される場合はご注意くださいと思います。お願いをしておきます。次に9ページをお願いします。これが4月19日から20日にかけて三津浜の外港で日本丸という帆船を呼んでくると、海上自衛艦6千トン級、大きな自衛艦が入ってきて、公開をさせていただく予定です。19日、20日で約3万人ぐらいの規模を集めたいと思っているところがございます。もし来られる機会がございましたら、三津浜に足を運んでいただいたらと思います。このほかにあと三つメインイベントと呼ばれるものが予定されておまして、10月には興居島の由良小学校でアート作品やパフォーマンスを発表する「しまのわ学校文化祭 in 興居島」を開催することとなっております。それと19ページをお願いします。松山市と書いてあるところに14のイベントがありますが、民間企画イベントで24のイベントを予定しております。これは春号でございまして3、4、5月に取り組むイベントしか載っておりませんが、これから夏号、秋号というのが出てまいります。その中でもご紹介をさせていただくこととなっております。「夏休み興居島マリンスフェスティバル」であったり、「小富士登山と島四国ミニウォーキング」、「興居島の船踊り」など全部で24のイベントを予定しております。それで、いよココロザシ大学に入られて提灯を吊るイベントを実施していただけるということですが、我々もこういったガイドブックであったり、「しまのわ」のホームページとか、市の広報紙、あるいはイベントを受託していただいている南海放送において積極的に広報をしてまいりますので、ぜひともよろしく願いしたいと思っております。

【男性】 門田の墓地のごみについて、今ちょうど彼岸の入りで祭日、日曜日、今日でも墓参りに島外から来られているんですが、しきびを持って

墓に来て、古いのを海に捨て海が汚れてしまう。市の公園のごみは収集してくれるようになってはいるんですが、そのときに墓のごみも一緒に持ち帰ってもらえないかということをお願いします。

【都市政策課長】 都市政策課の松本です。結論としては持ち帰って協議をさせていただきたいと思います。都市整備部の公園緑地課が公園を所管しておりまして、各公園には管理協力会、地元の方々に日常の清掃等の管理をしていただいております。墓地の所管は保健福祉部になります。

【保健福祉政策課長】 保健福祉政策課の高橋です。市営の墓地のごみですけど、通常は月2回程度回収させていただいております。ただし、お盆とかお彼岸などのお墓参りが多い時期には、回数を増やして月3回ほど委託している業者が回収している状況となっております。どうしてもごみが溜まってひどい状況のときには保健所の生活衛生課、電話が911-1863に連絡していただけたら職員が出向いて状況を確認させていただいて、回収もさせていただきますのでよろしく願いいたします。

【男性】 この門田の墓地ですが、市営の墓地ではないんです。市営の墓地やったら当然市がしてくれるんですけど、市営の墓地じゃないので。一時はその墓を利用している人がやってたんですが、CO2の問題とかで焚き火はいかんということで禁止されて、島内におる方は持ち帰るんですが、島外から来てしきびの入れ替えをしたときに、古いのを放って帰る。前が海ですから海が汚れていかんので困っております。

【都市政策課長】 わかりました。市の内部で関係するところで協議をさせていただきたいと思います。よろしく願いいたします。

【男性】 私からちょっとお礼を申し上げたいと思います。泊公民館の館長をさせてもらっております。由良の館長から耐震工事の話が出たので大変申しわけないんですが、泊の公民館は昨年の秋口から耐震工事が始まりまして、最近終わりました。正式には4月1日からの利用になると思います。一部使わせてもらっているんですが、おかげさまで安心して使えるようになりましたので、泊地区の人のために有効に使わせていただきたいと思います。本当にありがとうございました。

【男性】 島づくり人材養成大学へ2年前に行かせていただきました。あの当時、東京に行って3日間研修したんですけど、離島振興法の対象になっていませんでした。全国から離島の方が集まって一堂に会したんですけど、その中でも島民数が10名に満たない島だったり、東日本大震災で被災した島の方もおられたし、フェリーが1日1往復しかない2時間も3時間もかかるという島の方たちが多くて、興居島でいうと保育園、小中学校もあり、診療所もありデイサービスもあり、フェリーは片道10分で何往

復も1日にあるという、なんて羨ましいと言われたぐらいだったんですけど、でもほかの離島の方々の現状が、将来興居島の現状であると思って勉強もさせていただいて、その後、離島振興法の見直しがあつて対象になりましたので、できることからやっていかないかなと思っておりますので、参加させていただいたことにお礼申し上げます。ありがとうございます。それと、同じ興居島の皆さんでも知らないことだと思つるので、ちょっと現状の説明を。昨日3月22日もものはな保育園卒園式修了式がありました。市長からは祝辞もいただきました。ありがとうございました。もものはな保育園は本当に最高の保育園です。少数保育のいいところが出ていまして、保育園の運動場は遊具が少ないんですが、地元の公園まで行って遊んだり、フェリーとか電車は子どもは無料なので、そういうのを利用して、保育の色んなアイデア出していただいで頑張つていただいております。園長先生と保育士さん2名、給食の先生の4名体制で頑張つていただいております。平成26年度4月から認可保育園として、本来15名以上が認可保育園として運営できる基準だつたと思うんですけど、来年1年間は認可保育園として、なおかつ先ほど説明いただきました園バスも合わせて運行していただくことになりましたのでお礼申し上げます。7名の園児がいたんですが、昨日3名が卒園いたしました。在園児4名で内3名が年長組、1名が年中に上がります。2年後には年長3名が卒園する、年中1名が年長に上がるという状況が見えているので、ここの保育園は里帰り出産の母親の上の子が一時預かりをされたり、ちょっとここ何年か興居島で結婚ラッシュがありまして、20代30代の夫婦が増えておりまして、話を聞くと子どもができた場合は利用したいし、当然あるものだと思つている部分がありまして、でも現実には園児数が減っていく中で園の存続が1年刻みで、すごい危機感を持っております。島の人口の減少の歯止めをするには、やっぱり今いる島の若者を島から出さないようにする必要があります。島で生活をして家庭を持って、子どもができて子どもがまた島で育てるというサイクルが、今はまだ成り立っているんですけども、これがおそらく保育園が2年後にはちょっと現実に危ないのかなという。そうすると子育てのサイクルが切れて子どもを育てるのにちょっと不都合があるので若い人が島から出て行く可能性が出てくるんです。今、もものはな保育園が園児4名で、興居島小学校、興居島中学校とあるんですけど、島外生の割合がかなり多いのでそれぞれ生徒数が30名くらいです。一番最初に危ないのはもものはな保育園で、その次が教員数の関係で中学校、小学校が最後まで残るのが現実だと思つんですけど、今、定住促進事業として旧由良小学校跡地、体験交流型市民農園を計画されているんですが、定住促進する

には若い人が島に残る、移り住んでくれることが大事だと思います。若い人が来ると母親がいて、女性の方がいて、子育てがどうしても外せない課題です。保育園は保育課、小中学校は教育委員会と管轄が違いますよね。横のつながりも持っていただいて、島は子育てに最高という、子育てするなら興居島じゃないといかんというくらいな整備をお願いできたらと思うので、検討をお願いいたします。

【保健福祉政策課長】 保健福祉政策課、高橋です。もものはな保育園ですが、子どもの集団保育、例えば子どもの成長とか発達にとって、集団の中で同じ年齢の子どもとか、違う年齢の子どもと一緒に生活して育つ経験をしてもらうことが大事だということで、松山市では保育園の園児が3名に満たない場合は休園することになっています。ただし、27年の4月から子ども子育てに関する新しい制度ができますので、今現在、国から色々な情報収集しているんですけど、その新しい制度の枠組みの中で、今言われたようなことも検討させていただけたらと考えておりますので、よろしくをお願いいたします。

【女性】 今まで高齢者の問題が出ましたので安心しました。もう一つは市が取り組んでいます、自動車で生ごみを取りにまいりますね。その生ごみの時間が少し早いんじゃないか思います。高齢者が多いために前の日に出すんです。そうすると猫や犬が網を破って穴をあけるので、それをまた修理する人が大変だと思います。それで回収する時間を少し遅らせていただけたら、前の日に出さなくても当日に出せるんですけど、山の上におる人が、どうしても足が悪いとか高齢のために前の日に出します。ですから、いつも網は破られ、生ごみは散り、冬はいいんですけど夏になると周り近所にもものすごい匂いがするので、今7時半くらいに取りにくると思いますが、これを8時半ぐらいに遅らせていただくと当日出せるんです。そうすると、生ごみの場合はその日の朝ゆっくり出せるんですけど、ちょっと回収の時間が早いために、いつでも前の日に出すんです。困っているんです。前の日に出す人を見つけようかと思って私もときどき思うんですけど、それがいつ出すかわからないので、いつも苦勞するんです。今はそう思わないんですが、夏になると困るんです。

【市民部長】 市民部の吉野です。よろしくをお願いいたします。ごみの収集は市の直営と民間委託で集めている部分があったと思うんですけど、まことに申しわけないんですが、持ち帰らせていただいて、担当課に必ずお伝えして、少しでも遅くならないか確認してみますのでそれでお許しください。どうぞよろしくをお願いいたします。

【男性】 農業関係のことですが、農地であって現実には農地じゃないとこ

ろがあるんです。一人住まいで処分ができないところについて、あげるから引き取ってくださいとお願いしても、農業委員会で、これは農地じゃないから許可できないと。それで雑木林になっているから農林水産課へお願いしまして、地目変更したらどうですか、除外申請していただいたらいいんですがというたら、「無理です」という言葉なんです。現状にあわしたもので今後対応してもらいたいと思います。こういう事例が増えてくると思います。

【都市ブランド戦略課長】 産業経済部の矢野でございます。おっしゃるように農地法とか農業振興地域の整備に関する法律で定められている農振農業地域は県が指定しているものですが、そういった地域に存在する土地は、農地転用は非常に厳しい状況だと思います。現状、耕作放棄もあって、非常にお困りになられていることも存じ上げているんですけれども、21年に法改正があって、農地の権利移動は非常に厳しくされている状況があり、転用が難しい状況に増々なっております。ですが、個別の案件は、おっしゃるように農地の位置とか転用目的などさまざまな観点から判断をする必要があると思いますので、農業委員会にはお問い合わせいただいているということですが、専門的な基準がございますので、一つ一つの案件については農業委員会あるいは農林水産課とご協議いただくことになろうかと思っておりますので、何卒ご理解をいただければと思います。

【市長】 できるだけ実態に則するように50アールのところを30アールにしたんですかね。ちょっとそれについてご説明いただけますか。

【都市ブランド戦略課長】 農地の売買とか賃借、そうしたことをする場合には農地法の許可がいるわけですが、許可要件の一つに取得後が50アール以上という下限面積の要件がございますけれども、今年の4月からこの下限面積については、30アールに引き下げることが決定しておりますので、この4月からは少しでも土地の流動化が図られるような形になればと私どもも期待しておりますので、その点も含めてお知らせします。

【市長】 我々にとっても耕作放棄地とか有害鳥獣対策は何とかしたいと思っています。国も食料の自給率を保っていきたい思いはあるんですけども、我々からももっと実態に則したものにしてくれと国には要望しておりますので、我々できることからどんどんやっつけていこうと思っておりますので、よろしくお願ひします。今日の話をお聞かせいただき、興居島の皆さんには胸を張っていただきたいと思ひました。実は毎年2月の下旬に「四国松山の観光と物産展」で札幌に出張に行かせていただいております。そういう物産展は全国でやっているんですけども、北海道でやる物産展はちょう

ど春が来るころに南国愛媛のものが来るので、すごく売り上げがいいんです。みかんもよく売れるので行かせていただいているんですけども、ちょうどそのときの出張で北海道大学に観光学部がありますけれども、興居島・中島のことをお話しましたら、フェリーで10分、15分で着く、松山が近い、とっても気候が穏やかである、雪が1メートル、2メートル積もるところと違うんですとご紹介したら、ものすごく移住とか可能性のあるところですねと北海道大学の観光学部の先生から言っていただきました。すごく全国の中でも羨ましいとおっしゃった話がありましたけども、皆さんには胸を張っていただきたいんです。私も興居島来させていただいて、初めて夜に興居島から松山の風景を見させていただいて、こんなきれいな風景を皆さん毎日見ているんだ。きれいな海がある、砂浜がある、そして松山市内では全然違うきれいな星空が見える。それを皆さんは日ごろ見ているんです。私も滅多に行かないですけど、東京に行って電車の中で喋っている人見ます？みんな電車に乗って携帯電話をやっているでしょ。そんなのじゃなくて、皆さんつながりがあるじゃないですか。興居島の人自分の島を誇らないと誰が誇ってくれるんですか。興居島の人動かなかったら、中島の人や怒和の人や津和地の人が興居島いいよねとやってくれますか。何が言いたいかという、やっぱり興居島の人自分たちの故郷を誇りに感じて動いてもらわないと。誰が一番に動いてくれるのかという興居島の人が一番魅力も知っています。ですから前向きに動いていただくことが大事だと思うんです。我々も興居島を活性化することを望んでいる、皆さんも活性化することを望んでいる。誰が動いてくれるだろうという話。人間のできることは限りがあります。ちょっとでも動いていただくことが大事じゃないかなと思います。松山の奥、三坂峠のふもとで奥久谷というところがあります。過疎のところですけども、ホテル祭りが6月にありまして大勢の人が集まるお祭りになっています。地元の人が最初は焼き鳥を焼くところから始めました。できるんですよ。それぞれの地区で宝物を見つけて、それを活かしていったらできないことはない。実際に小富士の頂上の竹を刈って、小富士の登山道が整備できるようになりました。皆さんが動いてくれているから行政もサポートさせていただくことができるようになりました。皆さんがやっぱり誇って動いていただくことが大事だと思っています。最後に私からお願いです。宮本武之輔さんは興居島の大先輩です。島の篤志家の宮田兵吉さんに出会って東京の学校に進んで、最終的には東京大学に進んで首席で卒業した方です。東京の荒川とか利根川とか日本の代表的な河川で現場責任者をした。新潟県の信濃川で堰が陥没するという非常事態の際には復旧の責任者として尽力した方で

す。私、この新潟県の燕市に今年の夏に行くことになりました。何らか宮本武之輔さんのことで動いていきたいと思います。プロ野球のヤクルトスワローズがありますが、日本語にしたら「つばめ」です。去年、ヤクルトスワローズが秋のキャンプをやっている松山市と春のキャンプをやっている宮崎県の西都市、そして沖縄県の浦添市、そして宮本武之輔さんが活躍した燕市、不思議なご縁で四つがいろいろ動いていきましようとなつながりことができました。去年その四つの市の少年野球チームが、まず松山で大会をしました。今年は燕市です。私、燕市に行かせていただき、宮本武之輔さんのことで動いてこようと思います。今、宮本武之輔さんの会があるんですけど、興居島出身の方は入っているんですけども、地元での動きがちょっと弱いかなと感じておりますので、できたら地元の方も動いていただくと宮本武之輔さんの顕彰がまたより知っていただける。島の子にももっと誇りを持ってもらえんと思っておりますので、そんなことも考えておりますので、またお力添えいただけたらと思います。ちょっと熱くしゃべらせていただいたんですけど、本当に興居島の方々には自分の故郷に誇りを持っていただけたらと思います。さまざま皆さんの声に耳を傾けながら、これからもよい興居島になっていくようにしていきたいと思っておりますので、ご協力のほどよろしく願いいたします。今日は長時間にわたりましてありがとうございました。

— 了 —